


# 監査報告書

令和4年5月20日

社会福祉法人素心会

理事長 萩原 勝己 様

監事 南山 利久 

監事 永井 清光 

次の通り令和3年度監査を実施したので報告します。

## 1 監査の方法及びその内容

### (1) 監査方法

新型コロナウイルス感染症は続いています。本年は従来方式に基づき対面監査を実施しました。事前提供資料に基づき質問等の照会を行ったのち、当日は現地調査、職員による資料説明、会計に係る諸帳簿及び関係書類の確認及び幹部職員に対するヒアリングを行い、その後監事間の意見調整を経て講評を行いました。

### (2) 監査に使用した資料等

#### ①事務局事前提供資料

- 令和3年度事業報告書案
- 令和3年度決算関係資料
- 財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援業務実施報告書
- 新型コロナウイルス対応（令和3年8月改定）
- 新型コロナウイルスに関する対応経過（令和3年度まとめ）
- 社会福祉法人素心会見学・ヒアリングによる報告書等
- 利用者預り金に関する経過報告書

#### ②監事質問に対する事務局回答

## 2 監査の結果

### (1) 事業報告書等の監査結果

- ①事業報告は法令及び定款に従い法人の状況を正しく表示しているものと認めます。
- ②理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

### (2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に処理、表示しているものと認めます。

## 3 監査講評

○理事長、常務理事の指導、監督のもとに業務は良好に執行されておりました。

新型コロナウイルス感染症が長期にわたり蔓延しているにもかかわらず、管理監督者及び職員の努力により法人業務が正常にきちんと行われていました。若干の陽性者をだしましたが大きく広がることもなく正常化しましたが、日ごろの危機管理体制がきちんと機能した結果であります。また利用者の活動や交流、行事、外出等の制限が緩められるなど利用者への配慮が感じられました。

○「新型コロナウイルス対応」を状況に応じて改定し危機に備える方策は大変評価するところです。「新型コロナウイルスに関する対応経過」（令和3年度まとめ）に記載されている職員、家族、利用者、関係者等への連絡、報告等がきちんとされていることは安心感を与える行動となっていますので、引き続き危機管理対応を願います。

○3年目となる新型コロナウイルス感染症を受け職員は心休まる日はないと思われま。職員にはメンタルヘルス対策や働き方改革等の工夫で「気の休まる職場づくり」が実施されるよう十分な配慮を願います。

○利用者対応として行っている「利用者預り金」に関し、不祥事が過去に発生したことが判明しました。残念なことですが、神奈川県や理事、監事等の関係者への報告、相談そして理事会にて詳細な報告が行われ、最後に法人としての対応がきちんと行われました。こうした迅速な一連の事務局対応は評価するところです。引き続き会計処理に係る事務管理体制への強化を願います。

○特定非営利法人よこはま地域福祉研究センターから職員育成を主軸とした報告書が提出されていますが大変内容の濃いものとなっています。第三者から見た社会福祉法人素心会への評価等は参考にすべきものでした。また現在の素心会が抱える問題点、課題を職員がきちんと認識していることは大変心強いものです。報告書意見交換会に掲げられた「10年後を見据えた基盤づくり」に向け、問題意識を職員一同もっていただき、今後も一歩進んだ法人改革への対応を期待するところです。

○支援体制については、安全推進委員会において、事故報告及びヒヤリハット報告の検証や、寮内に設置された見守りカメラを活用した分析に取り組むなど、事故等の再発防止対策を講じることで、支援現場における職員の安全に対する意識向上が図られていました。相互けん制委員会では、虐待ゼロの支援を目指した取組みが検討され、職員に対する虐待防止を啓発・普及するための取組が図られていました。

先般、中井やまゆり園における虐待事案が確認されましたが、引き続き職員同士で互いに助け合いながらより良い支援に繋がるよう「風通しの良い職場づくり」を目指した対応を願います。

○素心学院と共同生活援助（さざんかホーム）では、利用者の加齢・基礎疾患に伴う病弱者、重度者の増加が顕著となっています。環境整備及び支援体制の構築には苦慮される状況にありますが、利用者本人が望む生活を実現するための「意思決定支援」の対応を期待するところです。